



佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(6)

【概要】

令和 2 年 12 月 18 日(金)に、不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と工学系研究科及び先進健康科学研究科の大学院生、理工学部機能物質化学科の学生らが本年度最後となる第 6 回理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲の芽生えを目的に行なっています。

令和 2 年度最後となる第 6 回は、令和 2 年 12 月 18 日(金)に工学系研究科システム創成科学専攻及び先進健康科学研究科先進健康科学専攻の大学院生らと理工学部機能物質化学科の学部生が、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、「光と色の混ざり方の違いを知ろう!」と題して行いました。

最初に、化学発光実験として古くから知られているルミノール発光の実験を行うと、発生した一瞬の淡い光に子供達は歓声をあげていました。次に、光の色とエネルギーの関係を簡単に説明した後、光の三原色に相当する光を出す化学発光キットを使って実験を行いました。ルミノールとは異なる長い化学発光現象に子供達はさらに驚きの声をあげていました。混ぜたらどうなるのといった子供達の質問や、絵の具の混色と光の混色の違いを説明する間もなく次々と自ら確かめていく様子に、実験指導の学生たちは圧倒された様子でした。

本年度は新型コロナの影響でひと月遅れのスタートとなったため、最終回の開催も約 1 か月遅れとなりましたが、実験途中で理科の実験器具の名前を覚えたことを報告する児童もあり、大学生との 1 年間の交流で理科実験に親しみを持ってくれた子供が増えたことを嬉しく思います。



「理科実験教室」の様子